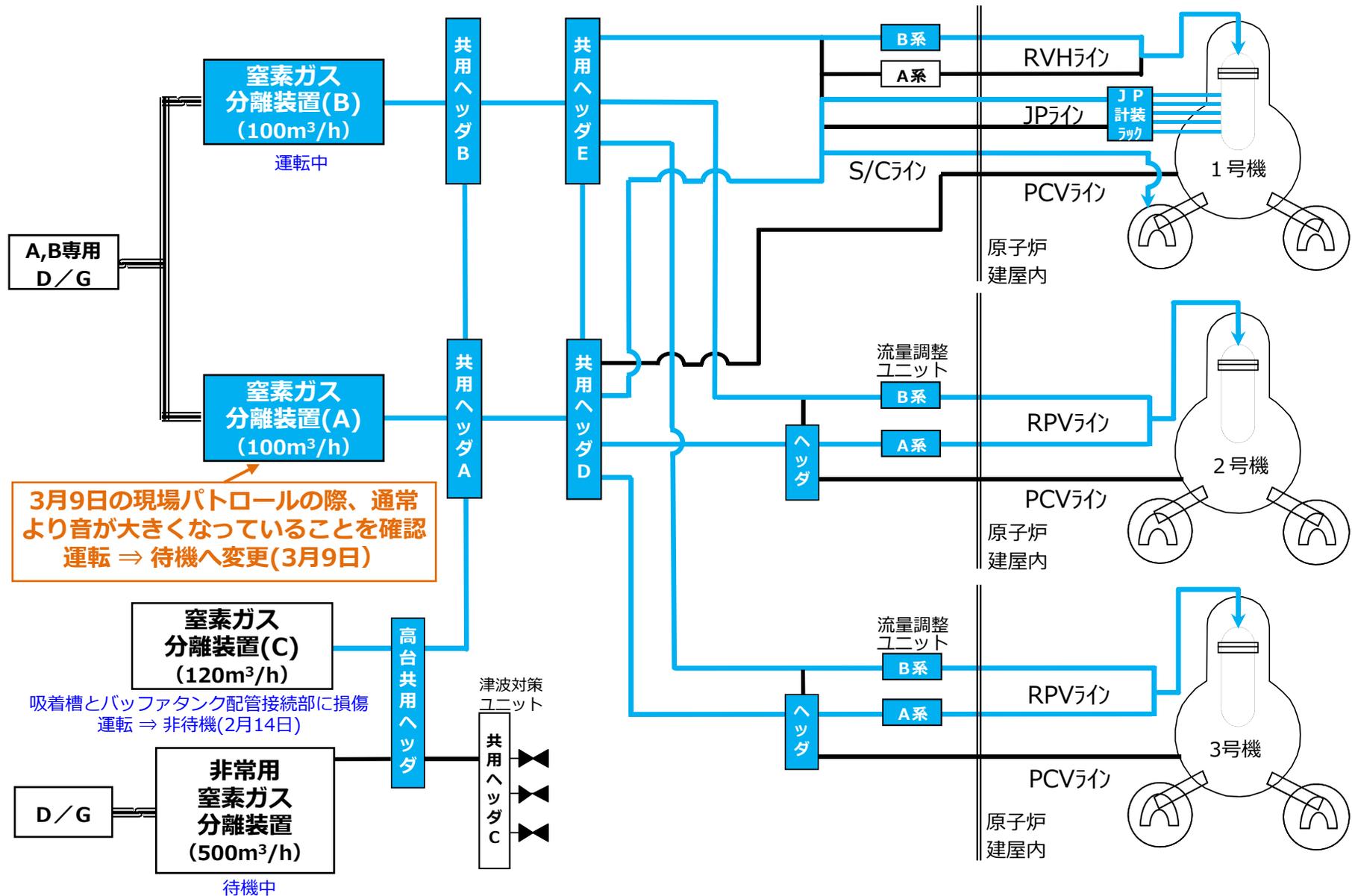


【概要】

- 3月9日、当社当直員による窒素ガス分離装置の現場パトロールにおいて、窒素ガス分離装置（以下「当該装置」）（A）の音が通常より大きくなっていることを確認しました。
- 窒素ガス分離装置（A）を調査したところ、当該装置（A）の空気圧縮機が吸い込む空気の圧力を調整する弁（以下「当該弁」）からの音が、通常よりも大きくなっていることを確認しました。
- 当該弁からの音が通常よりも大きい原因は、調査中ですが、当該弁のシールパッキンやOリング等が損傷した可能性があるものと推定しております。
- 窒素ガス封入設備においては、当該装置（A、B）2台運転を行っていたものの、当該装置（B）1台運転にした場合においても、1～3号機の総封入量（約66Nm³/h）を満足することから、同日（3月9日）午後7時40分、念のため、当該装置（A）を運転状態から待機状態に変更し、今後、準備が整い次第、分解点検等を実施する予定です。
（参考）非常用については待機状態を継続、（C）については非待機を継続
- なお、当該装置（A）については、当該弁からの音が通常より大きいものの、当該装置（A）の他の機器について異常（損傷・潤滑油や冷媒の漏えい等）が無いこと、運転データに問題が無いことを確認し、運転が継続できるものと考えており、分解点検を行うまでの間においては、待機状態から運転状態に変更することが可能な状況です。
- 当該装置（A）を運転状態から待機状態に変更後においても、プラントの運転状態に異常が無いことを確認しておりますが、引き続き、原子炉格納容器内の水素濃度が、運転上の制限で定める2.5%以下を満足していること等、適切に監視を行ってまいります。

<参考> 系統構成



<参考> 窒素ガス分離装置内の空気圧縮機イメージ図

